養護教諭養成課程における学外医療実習ストレスの分類(1)

因子分析を用いた分類の予備的検討

○酒井志瑞花¹・大村安寿弥¹・今井正司^{1・2}・今井千鶴子³・采女智津江^{1・#}・釜賀雅史^{1・#}・末松弘行^{1・#}

(¹名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 ²早稲田大学応用脳科学研究所 ³早稲田大学人間総合研究センター #非会員)

キーワード：学外医療実習，ストレス，養護教諭養成課程

Categorization of Clinical Internship Stress in Yogo-Teacher Course (1st report)

Shizuka SAKAI¹, Asumi OMURA¹, Shoji IMAI¹, Chizuko IMAI², Chizue UNEME^{1, #}, Masafumi KAMAGA^{1, #} and Hiroyuki SUEMATSU^{1, #}

(¹Nagoya Univ. of Arts and Sciences, ²IABS, Waseda Univ., ³Advances Research Center for Human Sciences, Waseda Univ.)

Key Words: Clinical Internship, Stress, Yogo-Teacher Course

目 的

養護教諭の養成課程において必須とされている学外医療実習は、保健・医療分野における技能を学ぶ貴重な機会である。しかしながら、実習を経験する学生の中には、過剰な心理的ストレスを経験する者も少なくないことが報告されている(久野・藤井, 2006)。これらの心理的ストレスの類型については、教育的観察から把握されることが多く、定量的な側面から検討されているものは少ない。そこで本研究では、養護教諭養成課程における学外医療実習ストレスの分類について、因子分析を用いて検討することを目的とした。

方 法

項目の抽出選定手続きと質問紙の作成

学外医療実習を経験した学生が作成した実習記録と実習ストレスに関する文献の中から、学外実習ストレスに関する記述を抽出した。その後、KJ法に準じた項目の分類と選定を繰り返し、63項目を質問紙の項目として使用することとした。質問紙の教示文は「あなたの気持ちに最もよく当てはまる番号にマルをつけて下さい」とし、回答形式は「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」の6件法とした。

調査対象者と手続き

養護教諭養成課程の大学学部生149名を対象に質問紙を用いた一斉調査を行った。記入漏れなどを除いた有効回答数は130であった。

倫理的配慮

調査対象者には「調査回答の任意性」「学業成績との無関連性」「プライバシーの保護」について十分に伝えた上で調査を実施した。本研究は、調査実施大学における倫理委員の審査・承認を得て実施された。

結 果

63項目の質問項目のうち、フロア効果に該当した3項目を削除した60項目を用いて因子分析を行った。スクリープロットの推移を検討し、5因子が妥当であると判断した。次に、因子数を5因子と想定した因子分析(主因子法・プロマック

ス回転)を行った。因子負荷量が低い(.40以下)項目や多重負荷が示された項目を削除しながら、因子分析を5回繰り返し、26項目が選定された。各因子の内的信頼性を検討した結果、概ね満足のいく値(α :.71~.86)が示された。第1因子は「習得していると考えていたことが実際はできなかった」などの10項目から構成されていることから、因子名を「実習現場における知識活用の柔軟性」とした。第2因子は「自分の考えや思ったことを伝えることができた」などの5項目から構成されていることから、因子名を「実習活動に対する主体性」とした。第3因子は「病院での実習は必要かと疑問を持ち続けていた」などの4項目から構成されていることから、因子名を「実習意義に対する疑念」とした。第4因子は「現場スタッフに質問することができなかった」などの3項目から構成されていることから、因子名を「現場スタッフとのコミュニケーション」とした。第5因子は「実習中に動揺することがあった」などの4項目から構成されていることから、因子名を「実習活動中の感情制御」とした。

考 察

本研究では、学外医療実習に関するストレスの分類について因子分析を用いて検討した。その結果、信頼性の高い5因子が示された。「実習現場における知識活用の柔軟性(第1因子)」や「実習意義に対する疑念(第3因子)」は、大学における講義内容に直接的に関係する内容が示されたが、他の因子においては、感情制御能力やコミュニケーション能力に関する内容が示された。今後はこれらの結果をもとに、講義内容をより充実させるとともに、心理的・社会的側面に焦点をあてた教育指導などを積極的に行い、学外医療実習ストレスの低減を試みる必要がある。

引用文献

久野薫・藤井寿美子(2006). 養護教諭養成コース学生の看護教育のあり方に関する一考察, 名古屋学芸大学短期大学部研究紀要. **3**, 48-58.